

2022

4

April

ツナグ
働き方
研究所

Spot-Work Market Data-Report

スポットワーク

2022年
2月度版

マーケット

データレポート



スポットワークマーケットを定点観測する意義

○マーケットの定義

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働く「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

○マーケットの現状

スポットワーカーは、働き方改革法案の施行、コロナ禍を契機に急増しています。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少は、追加で収入を得たいという働き手を増加させました。

企業) 収益確保、生産性向上の観点から、ムダやムラのない=必要な時に必要な数だけ人材を配置する最適化思考が高まりました。

技術) テクノロジーの進化により、タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者が増えました。

「単発、短時間、短期間で働く」というワークスタイルは、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

○定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加して「単発、短時間、短期間で働く」ことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的には、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした観点からも、スポットワークマーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化することには、おおいに社会的意義がある。我々、ツナグ働き方研究所は、そう考えます。

- 03 概況
- 05 スポットワーク求人倍率
- 06 ※職種別・地域別
- 08 スポットワーク新規求人件数推移
- 11 スポットワーク平均賃金
- 12 ※スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較
- 13 ※スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較
- 15 就業構造/未活用労働指標 LU1/LU2/LU3/LU4
- 17 ※追加就労希望就業者推移
- 19 ※広義の失業者/失業率



スポットワーク 求人倍率

前月から-0.27ポイント、
前年同月から+0.33ポイント。

1.33 ↑
倍



地域別 スポットワーク 求人倍率

地域別でみると
東海が2.83倍で、
群を抜いて高い

2.83 ↑
倍
(東海エリア)



職種別 スポットワーク 求人倍率

キャンペーン・PR
が、5.26倍で最も
高い(前年同月比
+2.63ポイント)

5.26 ↑
倍
(キャンペーン・PR)



新規 ワーク数

前月比-15.6%、
前年比+120.2%
と新規ワーク数
は大きく伸長

4.9 ↑
万件



追加就労希望就業者

※2021年10-12月

週7-9月比27万人減、
前年比20万人減。

195
万人 ↓



広義の失業率※2021年10-12月

労働力人口に占める失業者と
追加就労希望就業者の割合。
対前年で0.6ポイント改善。

5.7 ↓
%



スポットワーク 平均賃金

前月から+2円、
前年同月から+39円。

1,087 ↑
円



アルバイト賃金 との格差

三大都市圏のアルバイト平均賃金は1,106円、
スポットワークは1,087円。

-19 円



職種最高賃金 (倉庫内軽作業)

スポットワーク主要職種
で、最も賃金が高いのは、
運送・ドライバー系

1,170 円



職種賃金格差 (倉庫内軽作業)

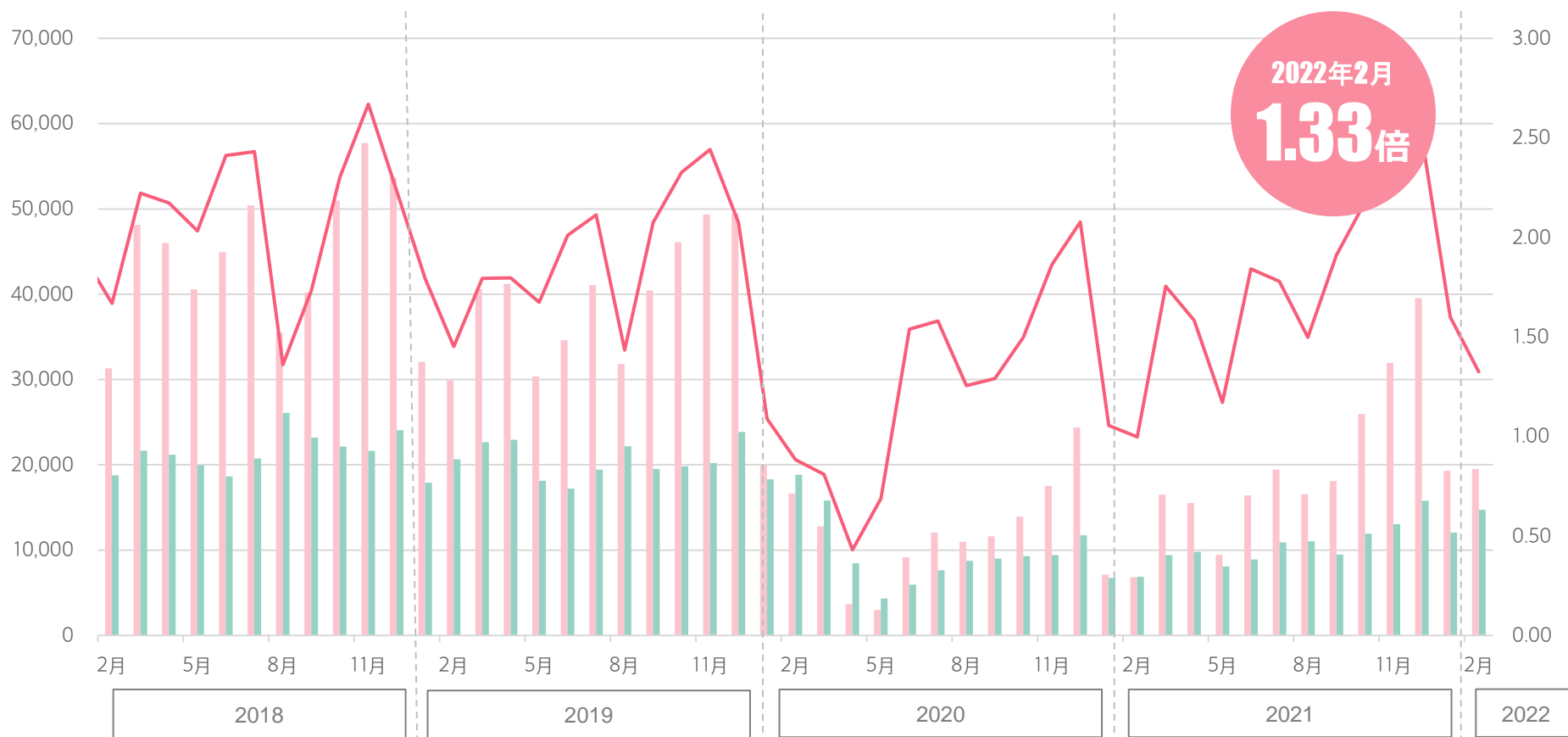
アルバイト賃金と比較して、
最も賃金格差が大きいのは倉庫内軽作業

+63 円

スポットワーク求人倍率

スポットワーク求人倍率の推移

■ 2022年2月度のスポットワーク求人倍率は1.33倍。前月から-0.27ポイント、前年から+0.33ポイント。



	当月		前月比	前年同月比	前月		前年同月
— 求人倍率	1.33	倍	-0.27	0.33	1.60	倍	1.00 倍
■ 求人数	19,507	件	1.0%	184.8%	19,311	件	6,849 件
■ 求職者数	14,720	人	22.0%	114.3%	12,068	人	6,868 人

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年2月～2022年2月データを加工
 ■ 求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数：当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

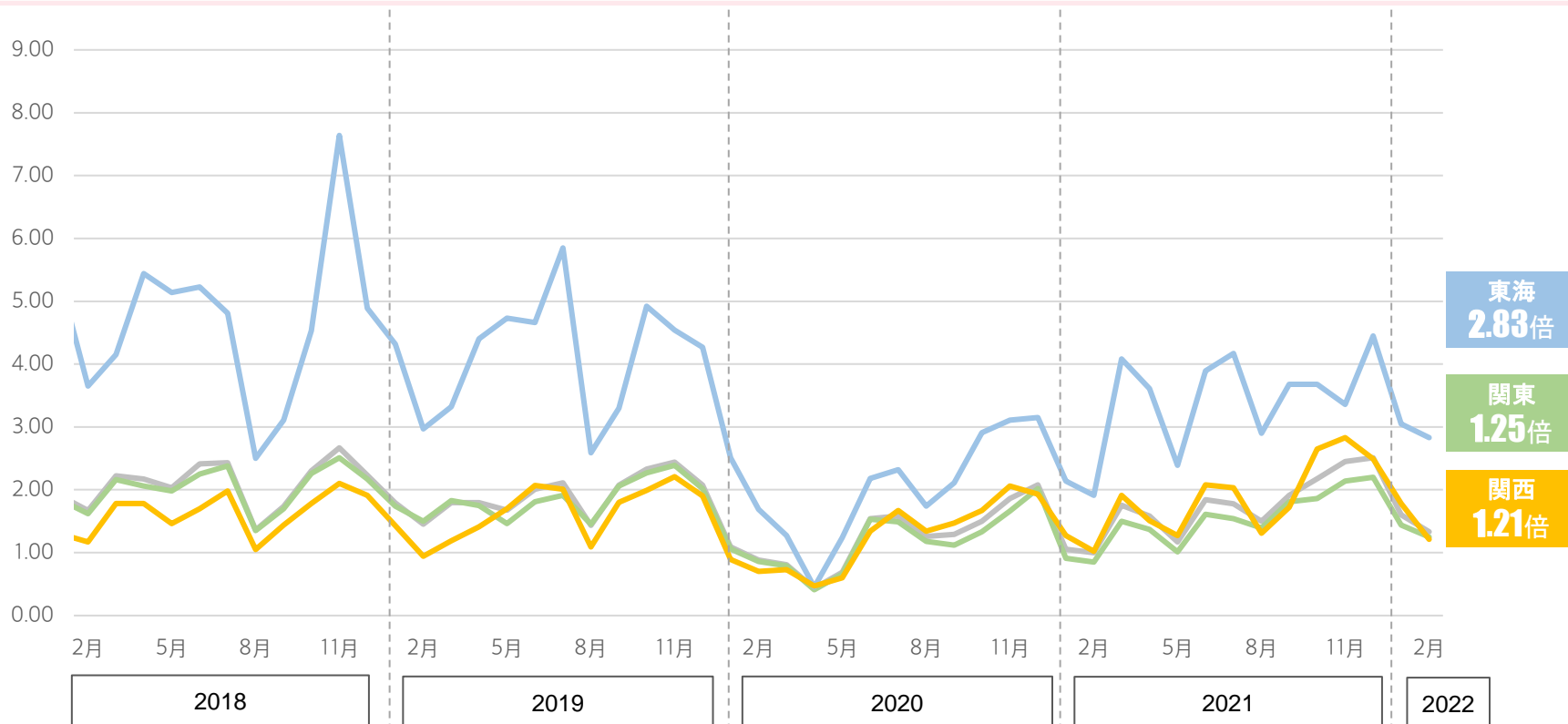
参考) 職種別スポットワーク求人倍率

職種名	2018 2月	2019 2月	2020 2月	2021 2月	2022 2月	前年比
イベントスタッフ	1.15	1.10	0.60	0.56	0.63	0.03
飲食・フード	1.29	1.15	1.54	0.69	1.50	-0.04
倉庫内・軽作業	1.14	1.11	0.69	0.86	1.26	0.57
組立工	1.37	0.96	0.78	1.14	1.44	0.66
コンビニスタッフ	3.22	3.85	3.69	3.84	4.74	1.05
キャンペーン・PR系	7.16	4.60	2.42	2.63	5.26	2.84
運送・ドライバー系	2.06	1.83	1.15	2.11	3.76	2.61

職種名	2021 2月	2021 3月	2021 4月	2021 5月	2021 6月	2021 7月	2021 8月	2021 9月	2021 10月	2021 11月	2021 12月	2022 1月	2022 2月	前月比
イベントスタッフ	0.56	1.32	0.94	0.71	1.08	0.91	0.75	1.05	1.30	1.19	1.21	1.06	0.63	-0.43
飲食・フード	0.69	2.33	4.39	1.58	4.67	2.20	2.74	1.23	1.45	2.85	3.82	2.17	1.50	-0.67
倉庫内・軽作業	0.86	1.52	1.41	1.04	1.58	1.71	1.35	1.78	2.29	2.56	2.46	1.57	1.26	-0.31
組立工	1.14	1.77	1.98	1.23	2.20	2.34	2.10	2.62	2.64	2.84	2.26	1.73	1.44	-0.29
コンビニスタッフ	3.84	4.61	4.85	4.66	4.89	5.47	4.90	4.61	4.90	5.35	6.24	6.04	4.74	-1.30
キャンペーン・PR系	2.63	5.82	6.94	4.63	13.19	10.70	9.69	6.80	15.58	8.69	9.41	8.35	5.26	-3.09
運送・ドライバー系	2.11	2.35	3.89	2.54	4.41	3.32	3.99	4.01	5.20	6.85	6.86	3.60	3.76	0.16

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年2月～2022年2月データを加工
 ■ 求人数: ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数: 当月登録UU数 + 前月以前登録者の応募UU数

参考) 地域別 スポットワーク求人倍率推移



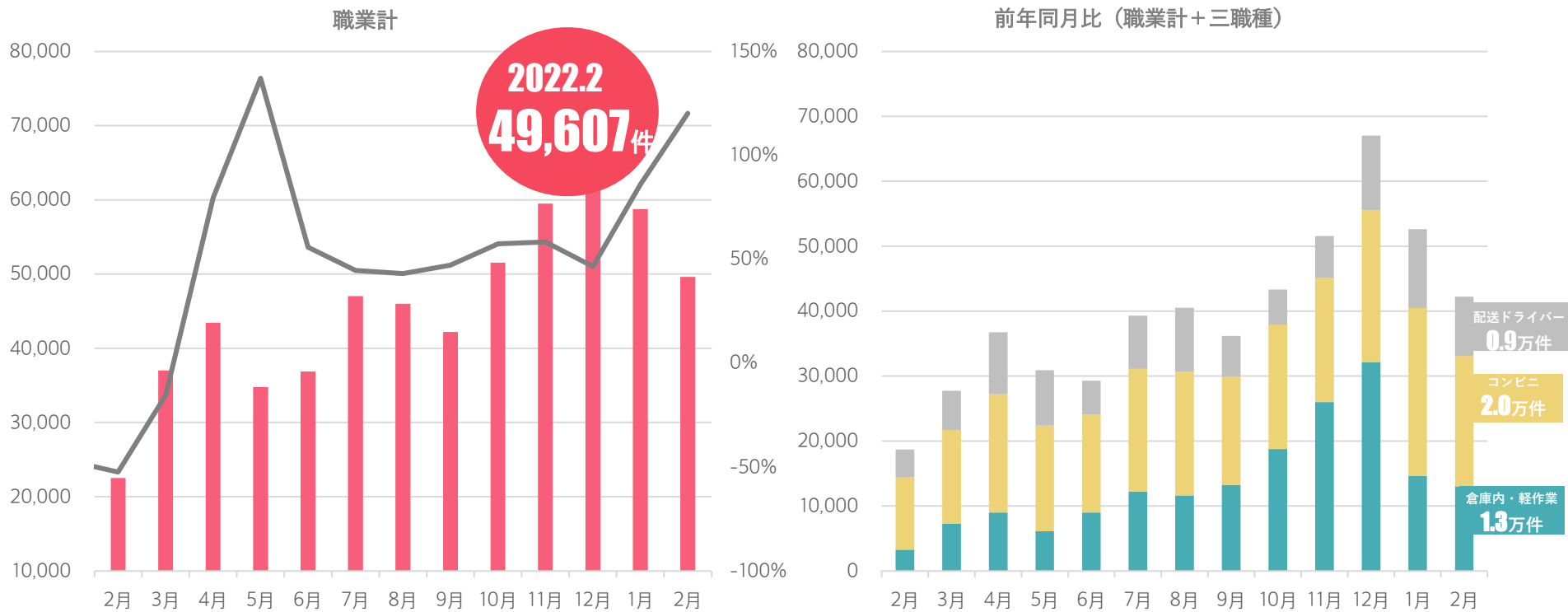
		■全国	■関東	■東海	■関西
求人倍率	当月	1.33	1.25	2.83	1.21
	前月比	↘	↘	↘	↘
	前年同月比	↗	↗	↗	↗
	前月	1.60	1.44	3.05	1.78
	前年同月	1.00	0.85	1.91	1.02

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2018年2月～2022年2月データを加工

■ 求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数：当月登録UU数 + 前月以前登録者の応募UU数

職種別新規ワーク数推移

■ 景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は49,607件（前年同月比+120.2%）。

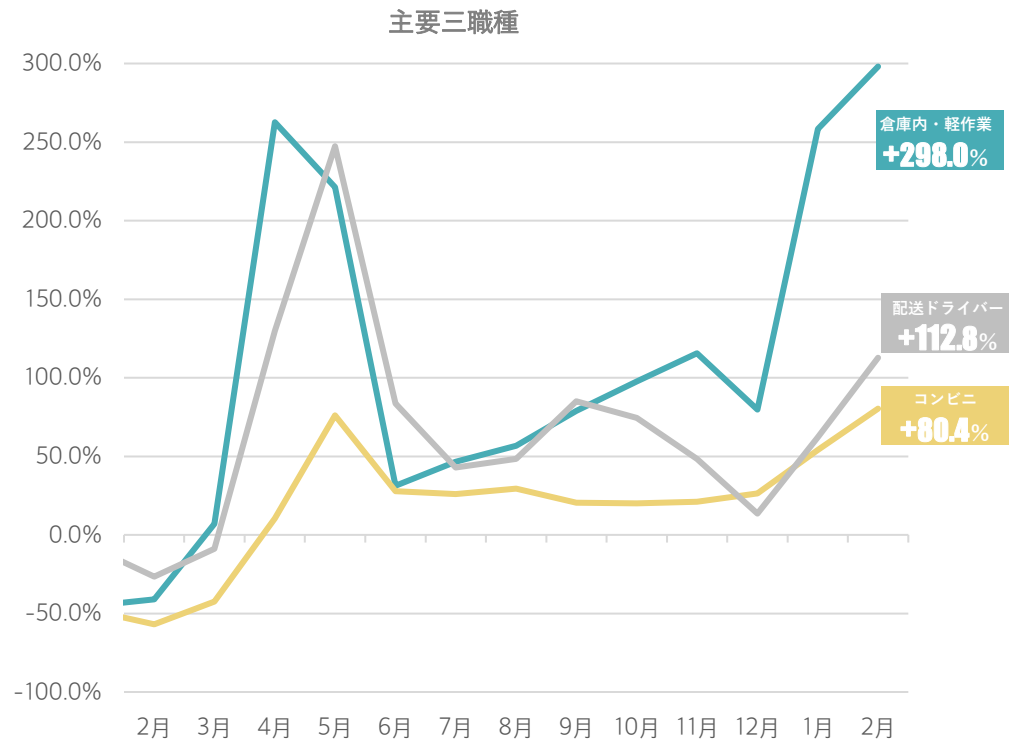
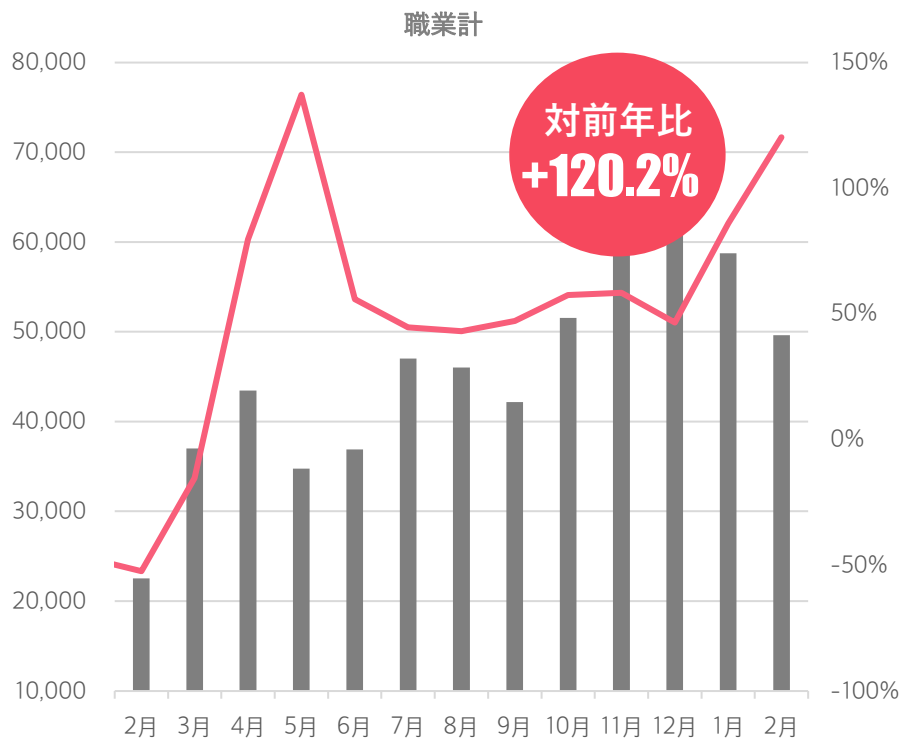


	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
■ 職業計	49,607 件	100.0%	-15.6%	58,743 件	120.2%	22,532 件
■ イベントスタッフ	1,186 件	2.4%	1.9%	1,164 件	172.0%	436 件
■ 飲食・フード	214 件	0.4%	-42.2%	370 件	1026.3%	19 件
■ 倉庫内・軽作業	13,024 件	26.3%	-11.0%	14,628 件	298.0%	3,272 件
■ 組立工	1,033 件	2.1%	-2.5%	1,059 件	227.9%	315 件
■ コンビニスタッフ	20,089 件	40.5%	-22.3%	25,860 件	80.4%	11,133 件
■ キャンペーン・PR系	637 件	1.3%	51.3%	421 件	79.4%	355 件
■ 運送・ドライバー系	9,137 件	18.4%	-24.7%	12,139 件	112.8%	4,294 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年2月～2022年2月データを加工

職種別新規ワーク数伸び率推移

■ 新規ワーク数は対前月で-15.6%、対前年比で+120.2%。主要職種の伸び率をみると、倉庫内・軽作業が対前年+298.0%で大きく伸長。



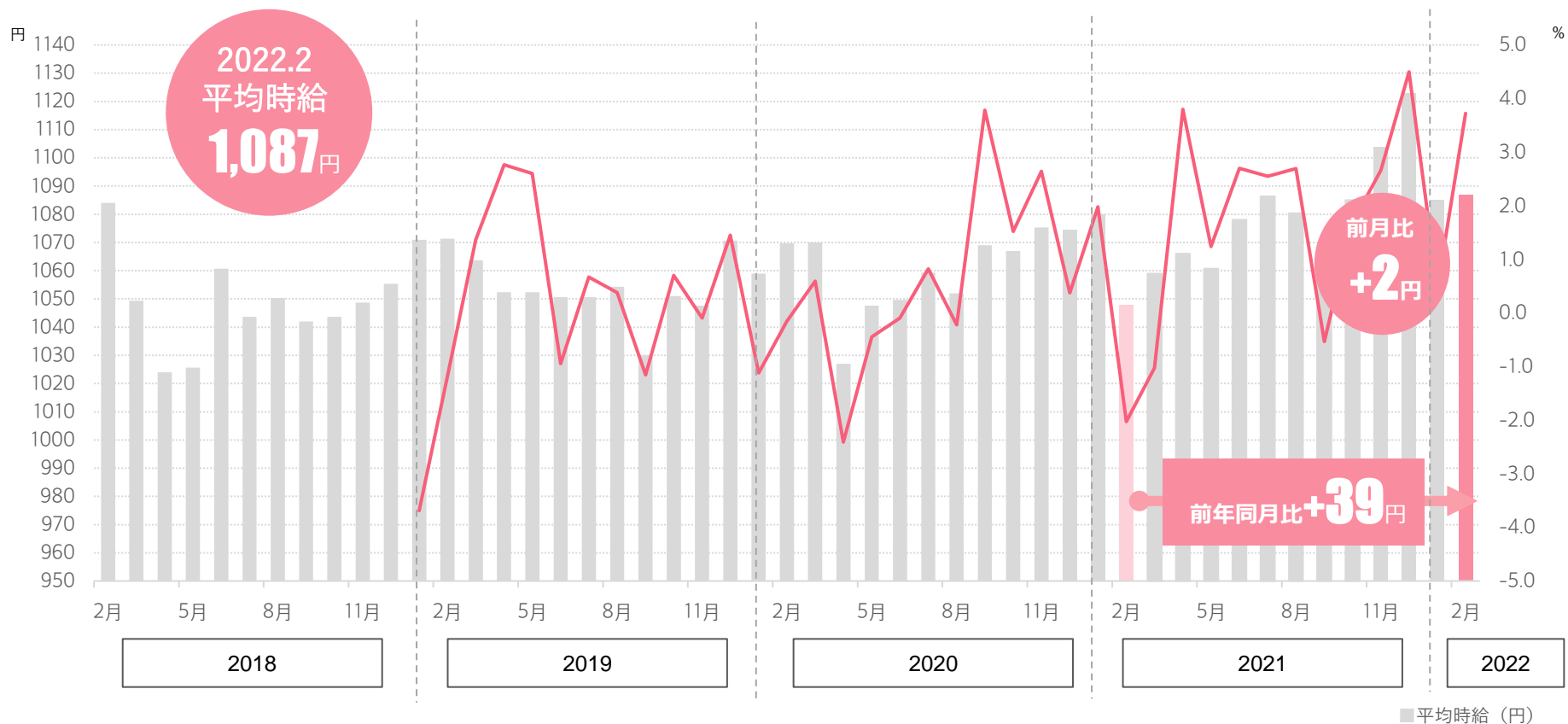
	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
■ 職業計	49,607 件	100.0%	-15.6%	58,743 件	120.2%	22,532 件
■ イベントスタッフ	1,186 件	2.4%	1.9%	1,164 件	172.0%	436 件
■ 飲食・フード	214 件	0.4%	-42.2%	370 件	1026.3%	19 件
■ 倉庫内・軽作業	13,024 件	26.3%	-11.0%	14,628 件	298.0%	3,272 件
■ 組立工	1,033 件	2.1%	-2.5%	1,059 件	227.9%	315 件
■ コンビニスタッフ	20,089 件	40.5%	-22.3%	25,860 件	80.4%	11,133 件
■ キャンペーン・PR系	637 件	1.3%	51.3%	421 件	79.4%	355 件
■ 運送・ドライバー系	9,137 件	18.4%	-24.7%	12,139 件	112.8%	4,294 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年2月～2022年2月データを加工

スポットワーク賃金推移

スポットワーク平均賃金の推移

- 2022年2月度のスポットワーク平均時給（首都圏・関西圏・東海圏の三大都市圏）は1,087円。
- 前月から+2円、前年から+39円と前年同月から大幅増加。

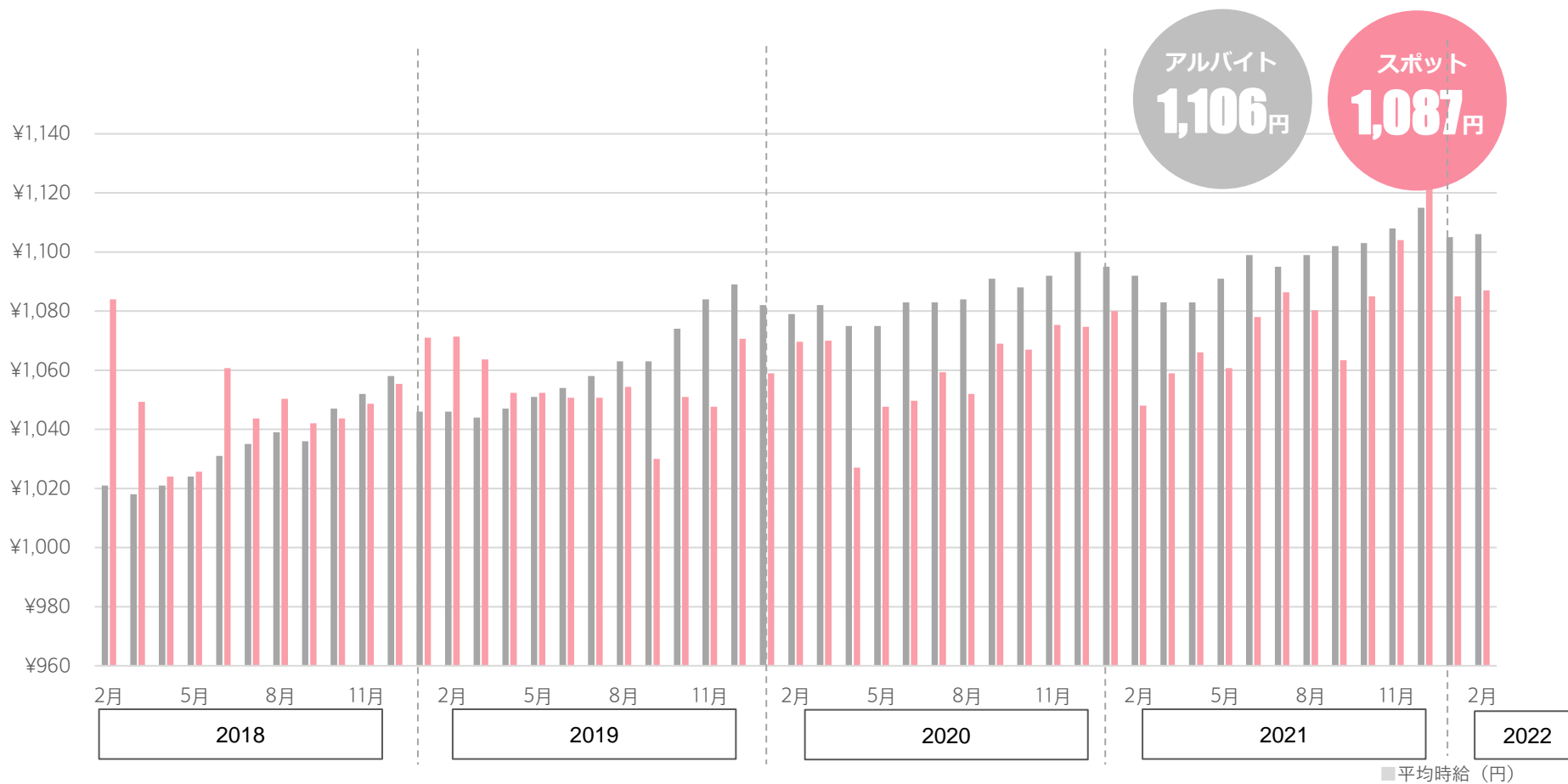


	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
三大都市圏	1087円	2円	39円	1085円	1048円
首都圏	1135円	-5円	31円	1140円	1104円
東海	1064円	19円	55円	1045円	1009円
関西	1061円	-8円	30円	1069円	1031円

出典) 単発/バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年2月～2022年2月データを加工

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較

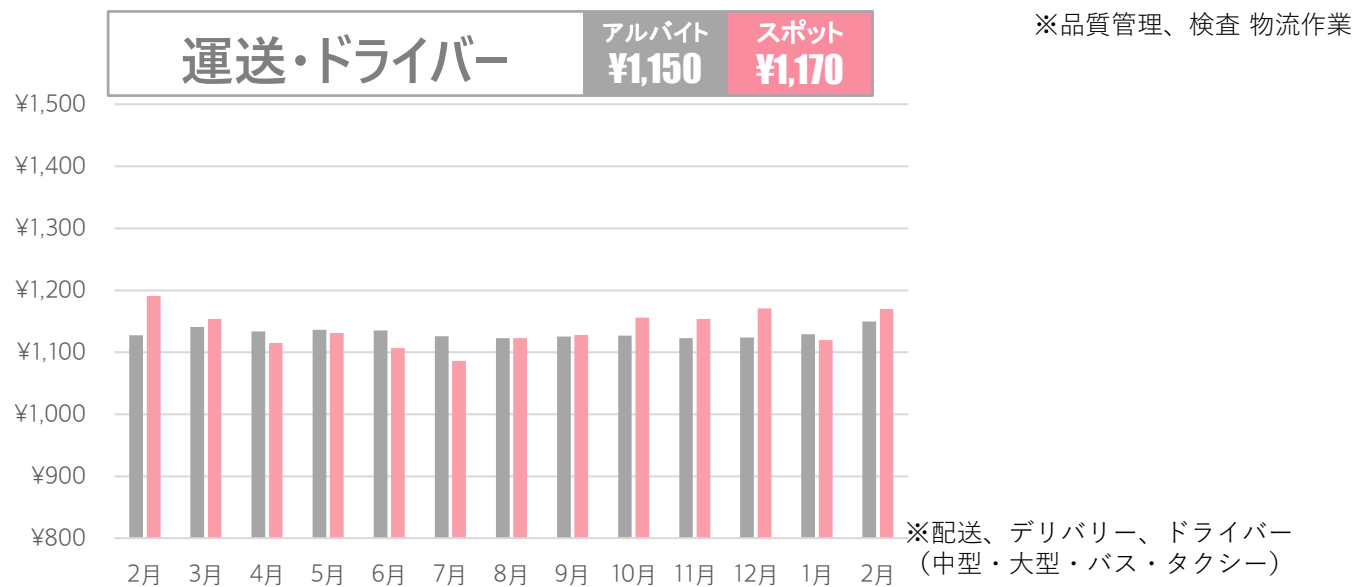
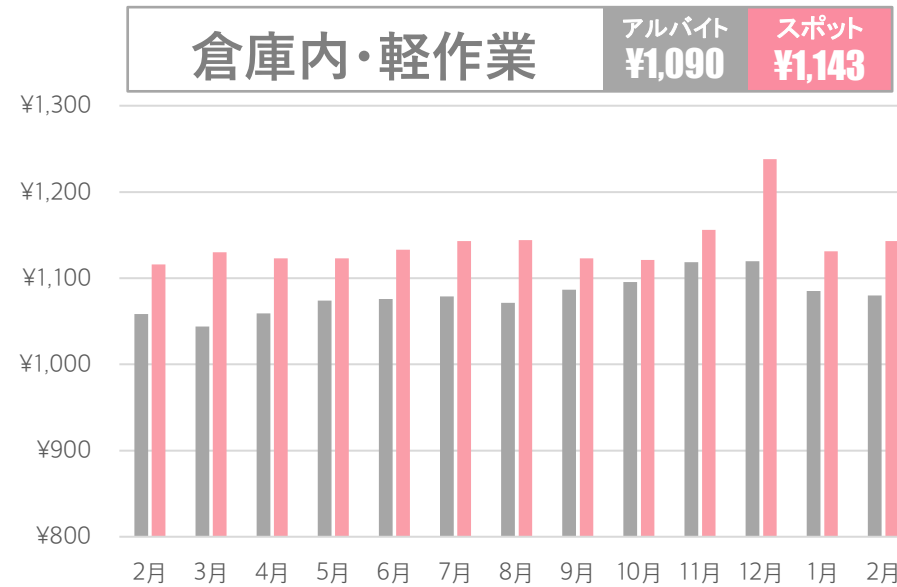
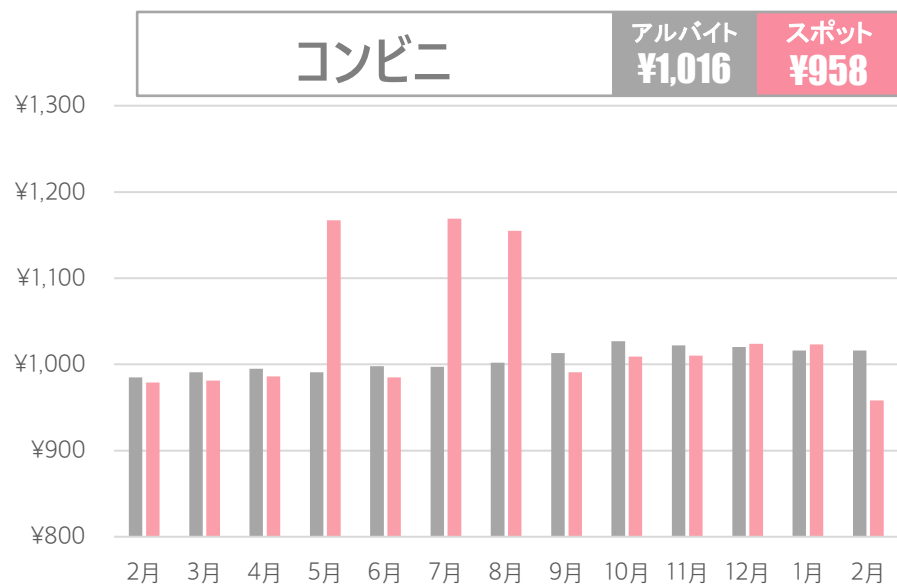
■ 通常のアルバイト平均時給（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）と比較して、スポット時給は19円安い。



	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
スポット	1087円	2円	39円	1085円	1048円
アルバイト	1106円	1円	14円	1105円	1092円

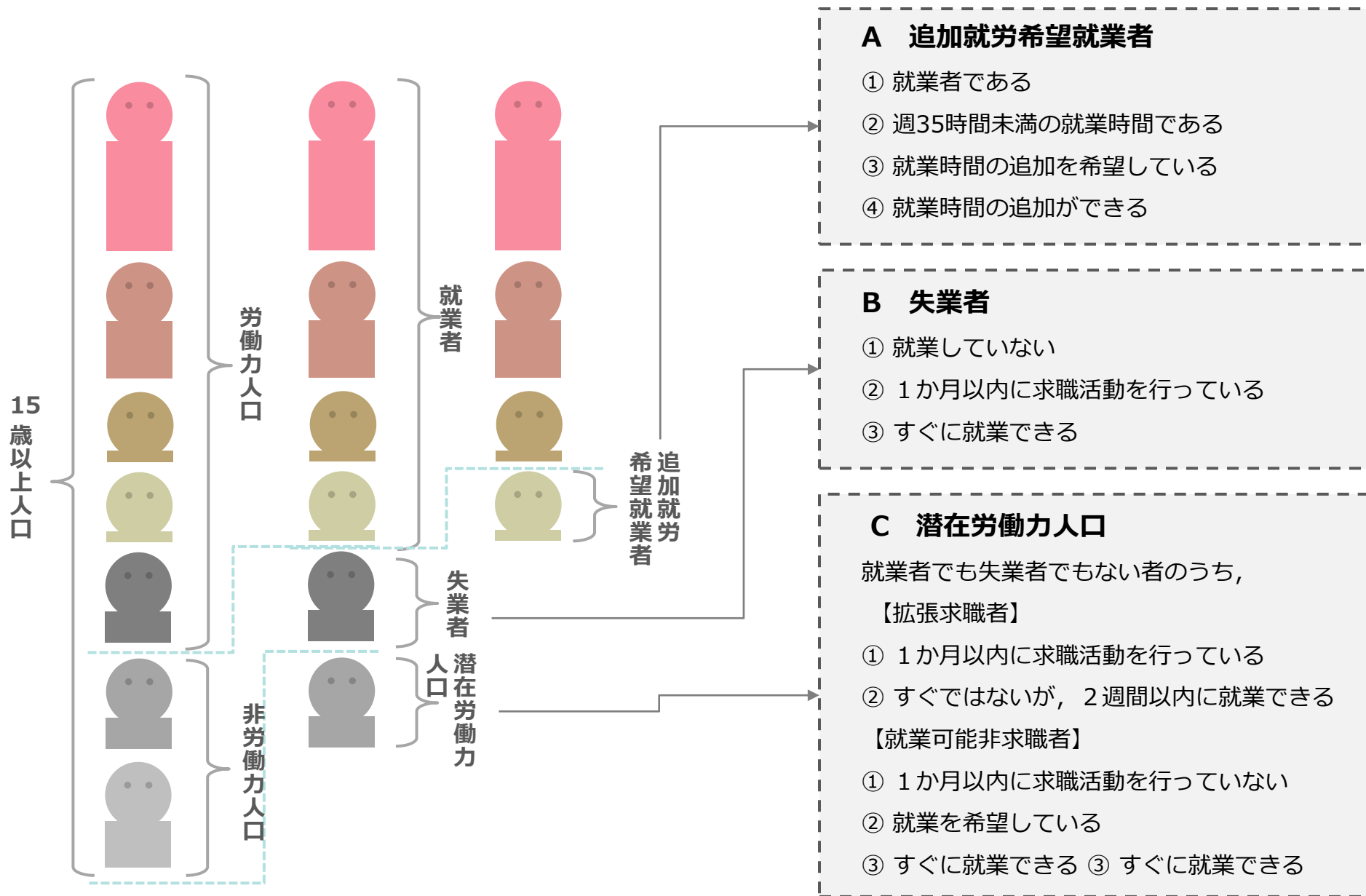
出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年2月～2022年2月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」 2018年2月～2022年2月を加工

参考) スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較



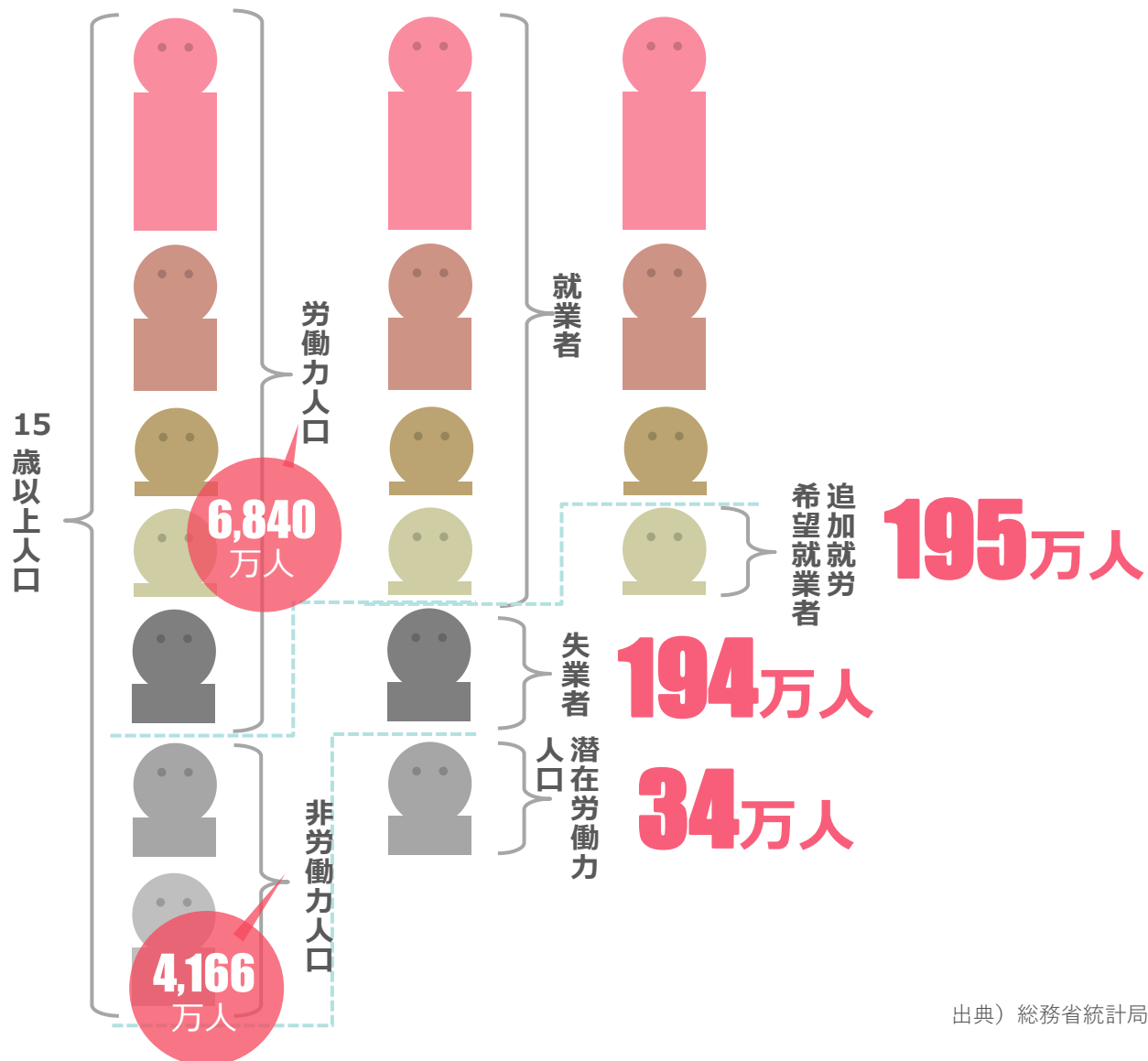
出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年2月～2022年2月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2018年2月～2022年2月を加工

スポットワーク労働市場



未活用労働力/2021年10-12月

- 2021年10-12月の失業者は194万人、追加就労希望就業者195万人（7-9月222万人）
- 失業者は7-9月211万人から17万人減、追加就労希望就業者も7-9月222万人から27万人減



LU: Labour Underutilization (レイバー・アンダーユティリゼーション)

LU1	$\frac{\text{失業者}}{\text{労働力人口}}$	2.8%
LU2	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者}}{\text{労働力人口}}$	5.7%
LU3	$\frac{\text{失業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	3.3%
LU4	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	6.2%

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2021年(令和3年)10~12月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者推移（季節調整値） / 2018年1-3月～2021年10-12月



- コロナ禍直撃の2020年4-6月に急増、2021年1-3月に再び増加に転じたが、徐々に減少傾向に
- 7-9月期においては、対前年比でプラス状況だったが、10-12月は、対前年比でもマイナスに転じた



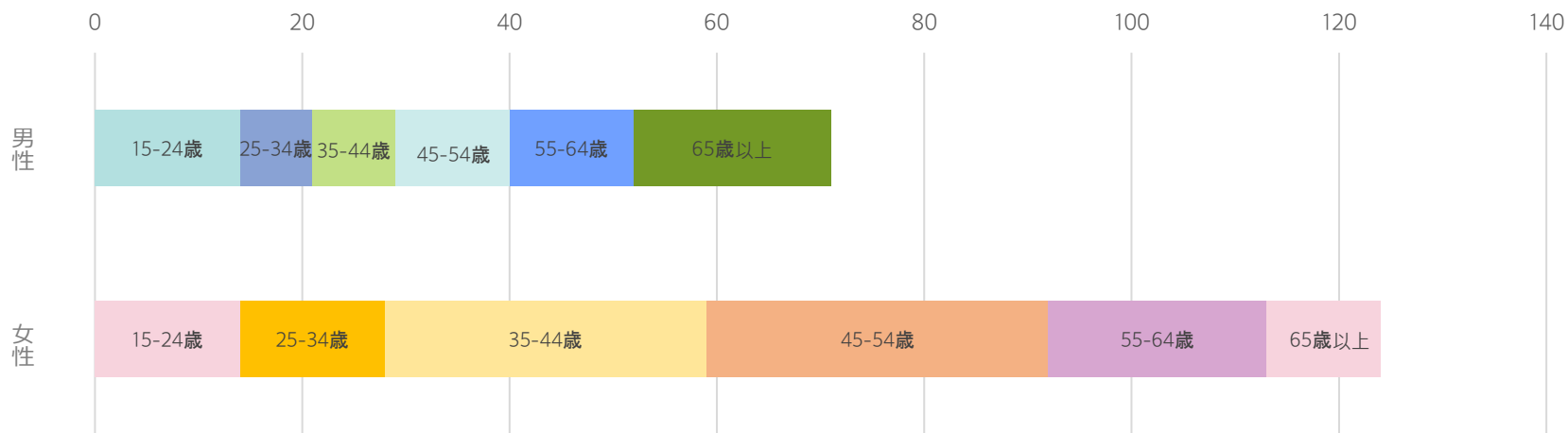
	2018年				2019年				2020年				2021年			
	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均	7~9月期平均	10~12月期平均
追加就労希望就業者	177	187	183	183	190	180	173	184	212	267	219	215	252	233	222	195
追加就労希望就業者率	2.6	2.7	2.7	2.7	2.8	2.6	2.5	2.7	3.1	3.9	3.2	3.1	3.7	3.4	3.2	2.9

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2021年(令和3年)10~12月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者 男女別×年齢階級別（季節調整値） /2021年10-12月



- 男女別では、男性71万人/女性124万人と、女性が全体の63.6%を占める。ボリュームゾーンは35-54歳の64万人
- 対前年でみると、全体で20万人減少。その内訳をみると、減少したのは女性だけ。男性は、全年齢でほぼ増減がない



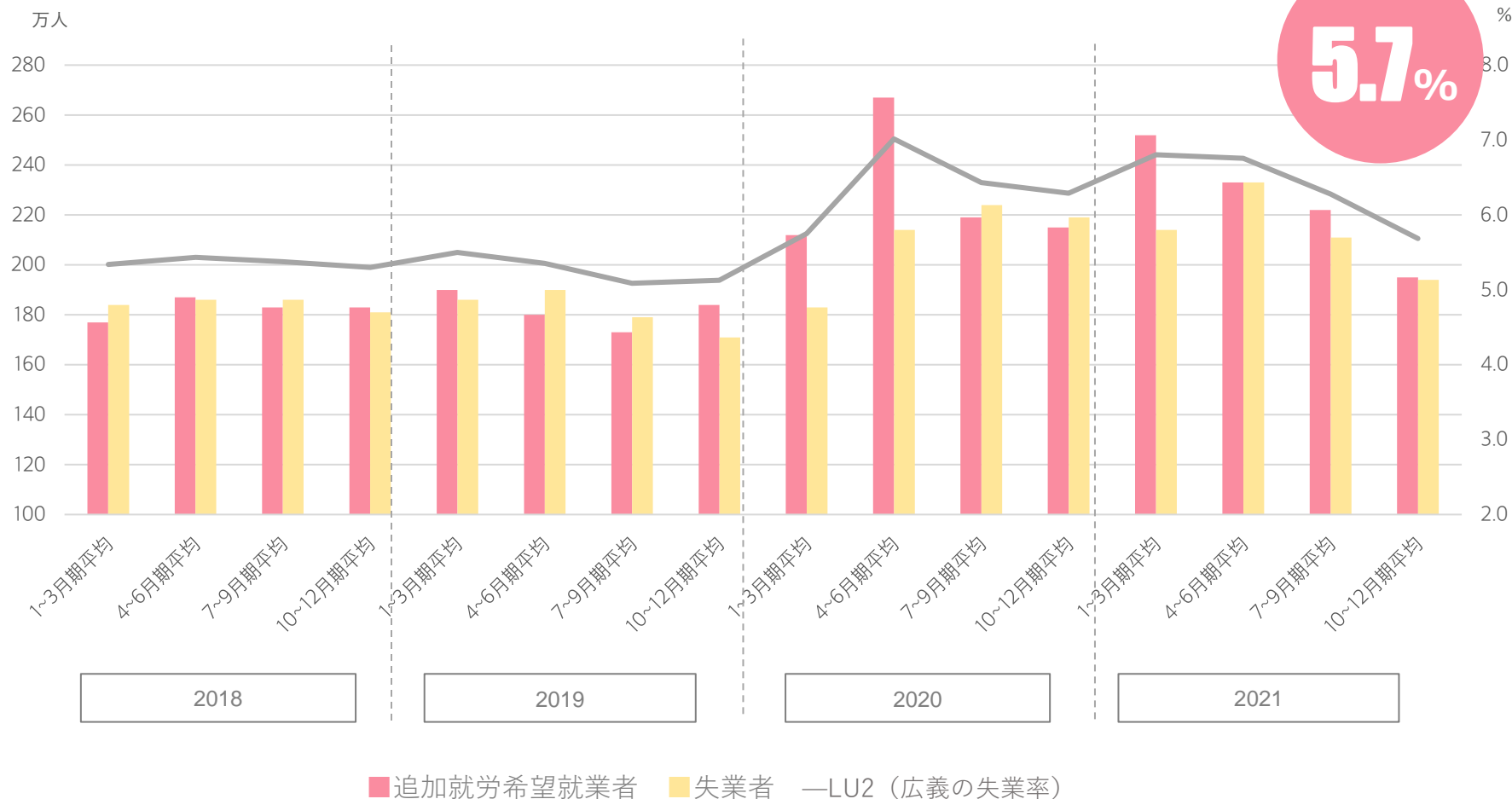
	総計	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	55～64歳
男女計	195	28	21	38	44	33	30
男性	71	14	7	8	11	12	19
女性	124	14	14	31	33	21	11
前年同月比							
男女計	-20	-6	-8	-2	-9	1	3
男性	1	-1	-1	1	1	-1	2
女性	-21	-6	-6	-2	-10	2	1

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2021年(令和3年)10～12月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

参考) 広義の失業者/失業率 (季節調整値) /2018年1月~2021年12月

再掲

- 失業者と追加就労希望就業者を足した「広義の失業者」は389万人。7-9月の433万人から44万人減。LU2にあたる「広義の失業率は」5.7%
- コロナ禍の2020年4-6月、緊急事態宣言発出の2021年1-3月など、失業者より追加就労希望就業者の方が、景気影響を受けやすいことが分かる



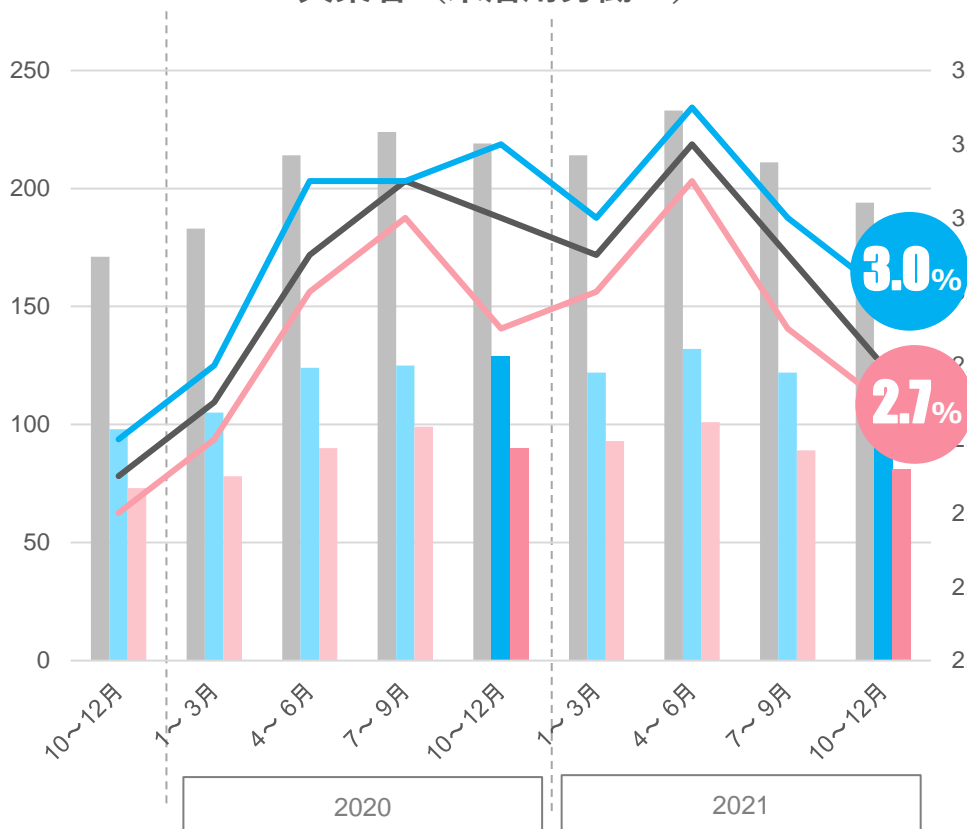
出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2021年(令和3年)10~12月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

男女別未活用労働推移/2018年1月~2021年12月

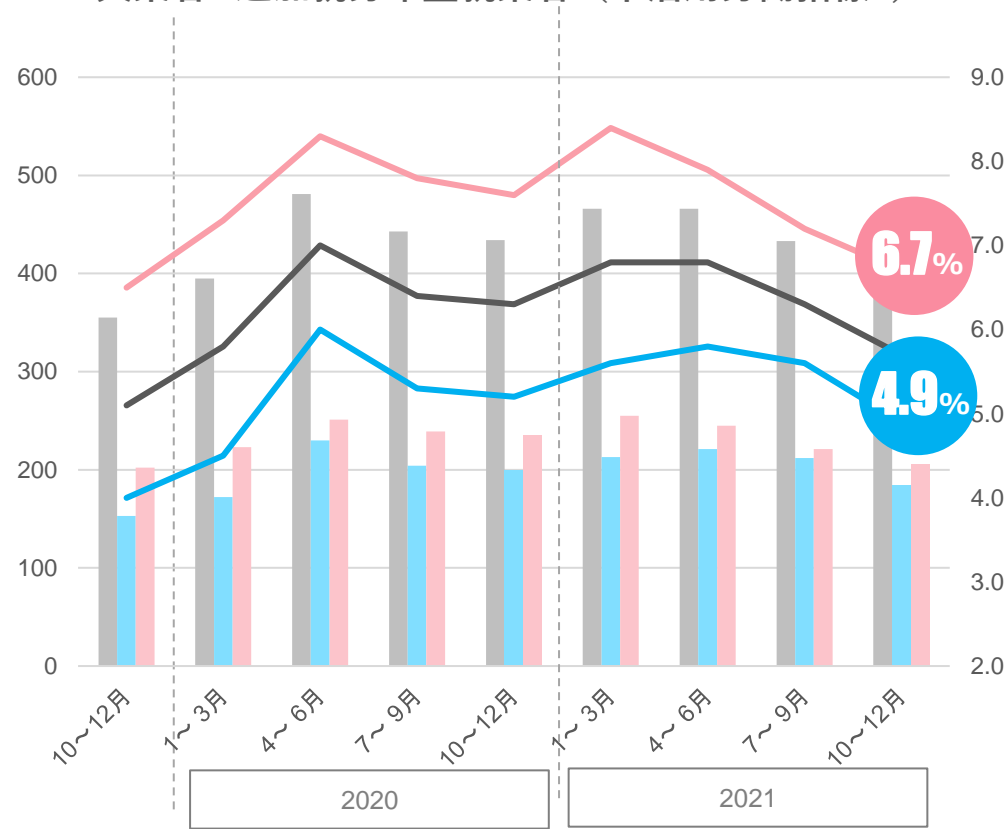
再掲

- 失業者は男性の方が多いが、失業者+追加就労希望就業者 (=広義の失業者) まで広げてみると、女性の方が多
- 対前年比では、男性失業者-16万人、女性失業者-9万人、女性追加就労希望就業者-21万人と減少するなか、男性追加就労希望就業者のみ+1万人

失業者 (未活用労働 1)



失業者+追加就労希望就業者 (未活用労働指標2)



■ 男女計 ■ 男性 ■ 女性

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2021年(令和3年)10~12月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>